

# 大学礼拝

第146号 東北学院大学 2019年12月25日

クリスマス特集号



## 巻頭言



宗教部長  
野村 信

### 「闇の中で輝く光」

闇の中を歩む民は、大いなる光を見、  
死の陰の地に住む者の上に、  
光が輝いた。

(イザヤ書九・二)

明るい日差しの中で生活しながら、「暗い」と言い、暗い闇の中を歩いているのに「明るい」と言う、そんな生き方があると聖書は語ります。

それは、預言者イザヤの見た世界の様子でした。この時代、イスラエルの民は、他国に侵略され、奴隷にさせられ、昼間の明るい光の下にいるのに、闇の中を歩むような重労働の日々の中に置かれていました。

敵国の奴隷となることが、どれほど悲惨なことかは、現代の私たちに想像しかねますが、しかし彼らにとってそれ以上につらいことは、自分たちを選び、特別

な民として大切に扱ってくださった神に見捨てられたという嘆きでした。

そのような暗い日々を送る中に、希望の光が見えました。それは、もちろん太陽の光ではありません。もっと深い、神から来る大いなる救いの光です。

預言者イザヤはそれを予感し、大いなる光の到来を人々に告げたのです。この光は、辛く、厳しい、ひどい迫害や抑圧の中に置かれて生きている人々に喜びとなり、希望となる光です。

その大いなる光は、この後、五節にあるように、男の子の誕生と深く関わっています。しかもその子は、成人すると、権威があり、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれると予告されています。

そのような偉大な人物が、登場することをイザヤは感じて、それを大いなる光であると暗闇の中にいる民に告げ、この光が到来することを喜んでいました。

このイザヤの預言から、数百年を経て、まさしく一人の子が誕生し、この子は成人すると、人類の救い主としてご自身を世界に表されました。

この光は、私たちへの光であると同時に、イザヤの生きた時代にまで遡って届いているということです。時間と空間を越えて、全世界に輝いています。ここにクリスマスのまことの喜びがあります。



理事長・院長 松本 宣郎

# 「クリスマスに3L精神を思う」



今年もイエス・キリストの人間世界への到来(アドヴェント)を祝う季節となりました。クリスマスのお祝いを申し上げるとともに、改めて東北学院が大切にしてきた3L精神について、クリスマスの文脈でお話ししたいと思います。それというのも、先号(一四五号)の「チャペルニュース」の1頁と2頁で野村信宗教部長が取り上げているように、目下本院では建学の精神の振り返りと浸透のために、「三つのL」にスポットライトを当て、説明の仕方とか、広く学内外にどのように掲げるかを考えているからです。

## 一、クリスマスにもたらされた「いのち」

3L最初の「L」、今回は日本語訳をひらがなで示します。イエスはマリアの胎に、聖霊によって宿りました。そして神の子が人間の幼な子として生まれたのです。神が「いのち」をお与えになったのです。そのイエスは成長して神の福音を宣べ伝え、大きな権威を誇っていたユダヤ教の現状を厳しく批判して捕らえられ、ローマ総督の手に渡されて処刑されました。イエスは神のいのちをこのような形で失いました。しかし十字架で死に、葬られて三日目に復活されたことよって「いのち」もよみがえったのです。

このことは私たちひとりひとりに深くかわるのです。私たちもまた「いのち」を与えられています。生きています。その「いのち」はやはり神さまから与えられた「いのち」であることに間違いありません。けれど、それは限

られた「いのち」であることを私たちは知っています。そしてそれは、創世記に記されたアダムとイブの物語に象徴されている、人類の負っている罪にかかわっていることも知っています。

もつとも重要なことは、イエス・キリストが人間の「いのち」を得て生まれ、死に、復活したことよって、私たちもまたキリストのように復活する「真のいのち」を約束された、ということなのです。

## 二、闇は「ひかり」に勝たなかった

これは「ヨハネによる福音書」のことばです(二・五)。ベツレヘムの馬小屋にイエスが生まれた情景は、しばしば夜のこととして描かれます。暗い世界を照らすように救いの御子が生まれた、とよく語られもします。そしてヨハネはキリストにおいて成った「いのち」が「人のひかり」だ、と語っているのです。二つ目のL、Lightです。イエスが生まれる以前の私たち人類が死すべき運命に支配されていたことは、まさに私たちが暗闇の中でしか「いのち」を享受出来ていなかったことを示すでしょう。

そこにイエスの到来よって、「ひかり」が差し込んだのです。私たちは「光の子」として歩め」と教えられています。私たちが晴れやかに、喜んで、光り輝いて歩めるのは、私たち自身が光を発して輝くではありません。ちやうど太陽を反映して初めて月がかがやいているように、イエス・キリストの「ひかり」

があつて、それに照らされる私たちが光の子となれるのです。それが出来るようになったのは、イエスがこの世界に誕生されたときなのです。

## 三、神があなたがたを愛したように

三つ目のLはLove、「あい」です。一見「あい、愛」は三つの中で一番わかりやすいように思われています。ことに若い人にとつて、「恋愛」がまず連想されるからでしょうか。「キリストは私たちをまるで恋人を愛するように愛してください」などと表現されることすらあります。それが間違いというわけでもありませんが、「あい」はもつと深い、広い射程をもつことは、幼い子供への愛、弱者への愛、平和への愛、などを思い浮かべるならすぐ理解されるでしょう。

出発点は神が人間を創造されたのは、人間を愛してのことであつた、ということですが。その人間が罪に罪を繰り返してしまつたにもかかわらず、神は御子キリストの「いのち」を、この世界に「ひかり」として遣わすほどに人間を愛してくださったのです。

そうであつたからこそ私たちは、キリストの光に照らされて初めて輝けると同じように、神の愛の力で、隣人を愛し、人類を愛し、自分自身をも愛するよう勧められるのです。

東北学院が大切にしている「三つのL」はこのようにすべてキリストに源をもつことが示されるのです。



## 山下りんの聖書挿絵から 『キリスト降誕：羊飼いの礼拝』

文学部総合人文学科教授

鐸木 道剛



(提供：笠間市 白凜居 柳澤幸子氏)

これは山下りん姉（一八五七—一九三九年）の描いた聖書挿絵の一枚です。キリストの降誕で羊飼いが訪ねてきたところです。まんなかの幼な子イエスを、マリヤが「こんな子よ」と右からの羊飼いたちにシートを開けて見せているようです。マリヤの後ろにはヨセフが立って両手を広げて驚いているかのよう。改めて幼な子を確認しているのでしょう。右からの羊飼いたちは四人、手前の羊飼いはまだ少年のようです。全体の後ろに翼のある天使たちが六人います。両手を前に礼拝のポーズです。一番後ろの天使は顔の部分が少し見えないですが、翼は見えます。左には岩の上に油のランプが灯っています。よく見ると右端には三人の博士がやってくるところが描かれていて、荷物を背に積んだラクダが左に向かっています。降誕の場所は馬小屋ではなくて岩窟。レオナルド・ダ・ヴィンチの『岩窟の聖母』と同じで、闇の中に光が現れたことを示します。これは中世ビザンティンで降誕が描かれる際はいつもです。全体が肥瘦のある日本画の筆で線をなぞっていますので、なんだかマリヤや天使たちの顔なども仏画の観音のようにも見えます。山下りんは日本で最初のイコン（聖像）画家。東方キリスト教の正教会の洗礼を受け、一八八一年からイコンを学びに二年間、ペテルブルグの女子修道院に留学しました。日本近代の女性画家のパイオニアです。

## わたしたちのクリスマス

— 聖歌隊メンバーの「クリスマスと音楽」 —



お話し：聖歌隊1～4年生、  
谷地敬晶子先生(聖歌隊トレーナー)  
聞き手：中川郁太郎

学院クリスマスで大活躍する宗教部聖歌隊のメンバーに「クリスマスとその音楽」のイメージについてインタビューしてみました。



— 聖歌隊のみんなにとって学院クリスマスのシーズンは、いつも振り返る間もなく過ぎ去ってしまうのかもしれないけど、聖歌隊に入る前のクリスマスのイメージってどんなでしたか？

横田・讚美歌などのキリスト教系の音楽のイメージと、現世万歳！という感じの巷のクリスマスとのギャップが大きいなと思っていました。

— その現世万歳！の方のクリスマスの音楽としてどんなものか思い浮かびますか？

横田・桑田佳祐の「白い恋人たち」とか…

谷地敬・ああ、「白い恋人たち」！私も学生の頃「いつか恋人とクリスマスまで過ごすんだ！」という現世のこと考えながら(笑)よく聴いてました！

— 私たちにとっては青春時代の思い出ですよ(笑)ほかに現世的なクリスマスの思い出がある人はいますか？

佐藤・中学1年生の時のクリスマスをこども病院で迎えたのですが、病院付属の学校の先生たちが子どもたちのために素敵なクリスマスを用意してくれたのが忘れられません。私たちはハンドベルの演奏や

合奏を楽しみ、最後には外国人のサンタさんまで登場しました。

— 誰だったの？そのサンタさんは。

佐藤・わかりません。

菊池・サンタさん系の歌、多いですよ「あわてんぼうのサンタクロース」とか。

— みんなは何歳までサンタさん信じてた？

長谷川・9歳ぐらいまで。

服部・5歳ですかね。

小山・11歳ですかね。

藤江・僕は結構、22歳ぐらいまで信じてましたね。

— じゃあ、サンタさんを「信じなくなつた」きっかけを覚えている人はいますか？

服部・5歳の時、親がクリスマスプレゼントの当てっこをしていて気づいちゃいましたね。

櫻田・小学生の時、普通に父親とトイザラスにクリスマスプレゼント買いに行ったので「ああ、親が買ってるんだな」と思いました。

— 「泉クリスマス」のSWEのコーナーではサンタさんがプレゼント配るじゃない。聖



歌隊が出る第2部でもあれをやつたら盛り上がるかな？誰か宗教部の先生にサンタさんの恰好してもらいましょうかね？誰が良いと思う？

全員・鐸木道剛先生ですね！

横田・木村純二先生も結構いい線いくんじゃないですか？

小山・あとは院長先生…

櫻田・そういえば、昨年の泉クリスマスで歌つた「飼葉おけにねむる」は楽しくてノリノリの歌で、こんな讚美歌があったのかと驚きました。

— あれは「こどもさんびか」の中の曲ですが、楽しかったよね。それではサンタさん系以外のクリスマスソングと云えば？

古山・「戦場のメリークリスマス

ス」とか…

服部・山下達郎の「クリスマスイブ」！

長谷川・B'zの「いつかのメリークリスマス」ですね。

今野・デイズニー系で「おもちゃの兵隊のマーチ」とか。

古橋・アイドルマスターの「メリー」。ゲーム内のイベントですが。

— やつぱり、ひと口に「クリスマスソング」と言ってもすごく多様化していて「これぞ今の時代のクリスマスソング！」ってみんなが言えるような歌はなくなっているみたいだね。

櫻田・クラシック系だと、たとえばベートーヴェンの「第九」は讚美歌でもなんでもないけど、日本のオーケストラがクリスマスコンサートとしてやつたりしますよね。

— そうそう、それを言ったら「ハレルヤコーラス」もクリスマスとなんの関係もないんだけどね(爆)でも公開クリスマスであれを歌わなかったら石が飛んできそうだから…まあ今年も公開クリスマスの「ハレルヤ」まで、みんなで楽しいこつ！

# 幼子イエスと「新しい年」

—— 音楽にみるクリスマスと新年 ——



中川 郁太郎

讃美歌第2編の152番に、有名な「グリーンスリーブス」のメロディをもとにした讃美歌があります。「グリーンスリーブス」は、英語圏では早くから讃美歌として歌われていたようですが、その第2節では次のように歌われます。

♪ わたしらの罪をその身に引き受け  
十字架の上で死なれたまよ  
主の名づけの その日も近づき  
めぐみ溢れよ 新しい年♪

この讃美歌は年末に、新しい年の恵みを祈って歌われる歌ですが、今日は「主の名づけのその日」という歌詞に注目したいと思います。私たちにとっての年末年始は、実は教会ではクリスマスの祝日の続きなのです。

12月24日、わが国でも家族や恋人たちの記念日としてすっかり定着したクリスマスイブが終わると、巷では大急ぎでクリスマスツリーやイルミネーションが片付けられ、新年を待つ装いに様変わりします。でも教会のクリスマスの本番はもちろん翌25日、しかもその1日で終わりではなく、新年をまたいで1月6日までクリスマスが祝われます。では元旦1月1日は教会では何をお祝いする日でしょうか。

8日たって割礼の日を迎えたとき、幼子イエスと名付けられた。  
これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

(ルカによる福音書、第2章21節)

幼子が生まれた12月25日をクリスマス第1日として、8日目にあたる1月1日は、幼子にイエスという名前が与えられたことを記念する「イエスの命名の祝日」なのです。

イエスの生まれた時代、ユダヤ人たちは、ローマ帝国による支配が続く先の見えない世界の中で、救い主の誕生を待ち望んでいました。そこに一人の幼子が与えられ、世界に(暦の数え方に至るまで)新しい枠組みが与えられました。そして今なお、幼子は混迷を深める世界にやってきて、「イエス」という名前と共に私たちに新しい年を与え続けているのです。

18世紀前半にハンブルクを中心に活躍したルター派教会の牧師エールトマン・ノイマイスターは文学への造詣も深く、教会の礼拝で歌われるカンタータの歌詞の改革を自らおこなった人です。エールトマンは幼子の誕生と、幼子がもたらす新しい年への期待を次のように歌いました。

♪ 来たれイエスよ、来たれ、  
あなたの教会に  
そして新しい、幸いな1年を  
与えてください。  
あなたの名のほまれを  
いや増し、  
健全な教えを守り、  
講壇と祭壇とを  
祝福してください。♪

(私訳：中川郁太郎)

参考音源：

- バッハ作曲、カンタータ第61番《来たれ、異邦人の救い主よ》(BWV61)
- ゲオルク・クリストフ・ピラー指揮 ライプツィヒ・トーマス教会聖歌隊
- ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団 Rondeau Production ROP-4040 (CD)

(この音源はYouTubeやアップルミュージックでも聴くことができます。お時間のある時に聴いてみてください！)



この詩は、エールトマンの協力者の一人であった大作曲家ヨハン・ゼバステイアン・バッハによってカンタータ第61番「来たれ、異邦人の救い主よ」の歌詞の一部となり、今日まで歌い継がれてきました。私は「キリスト教と音楽」の授業の中で、学生の皆さんとこのカンタータを聴き続けていますが、聴くたびに心を新たにされ、生きる勇気を与えてくれるような音楽であり、詩だと感じています。今年もまたクリスマスがやってきます。「闇の中の光」として、新しい年を携えてやってくるイエスを覚え、音楽に耳を傾け、歌いながら、年末の慌ただしい日々を共に過ごしたいと思います。

# 「神のみ業が 現れるために」



名古屋桜山教会牧師  
日本盲人キリスト教伝道協議会議長  
たなかふみひろ  
**田中 文宏**

ヨハネによる福音書9章1節には、主イエスが通りすがりに生まれつき目の見えない人を見かけられたとあります。ここに出会いの真理があります。ガリラヤ湖の岸辺で主イエスの最初の弟子となった漁師のペトロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネの出会いもそうでした。主イエスがまず彼らをご覧になり、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(マルコ17)と招かれたのです。彼らは、網を捨ててすぐに主イエスに従いました。

私は、兵庫県の北部の湯村温泉という山間の町に、農家の5人兄弟の末っ子として生まれました。近くに教会はなく、キリスト教とは無縁の

世界で育ちました。高校3年の時、はじめて聖書を手にしましたが、カクナの名前ばかり出てくる最初の数ページを読んで眠くなり、本箱の隅に投げ込んでしまいました。その後、盲学校の教師になることを志して東京の大学に入りました。受験勉強からの解放感や下宿住まいの寂しさもあり、私はアマチュア合唱団、障がい児のサークルなどに参加して、熱心に活動しました。しかし、将来に明るい希望を見出せず、焦燥感と疲労感に悩むようになりました。私が教会の門をくぐったのは、このような時でした。

私が教会へ導かれるようになった理由として二つのことが挙げられます。第一は、脳性小児麻痺の重いハンディのある兄姉と共に育ったことです。敗戦後の混乱の時代、農村社会には様々な偏見や差別が満ちていました。現在のような福祉や教育の理念や制度はなく、わが子の将来を悲観して親子で心中を図る事件が後を絶ちませんでした。私の家庭にはいつも暗雲が垂れ込め、明るい希望がなかったのです。第二に、私自身も中学1年生の時に眼の病気が見つかりました。失明の危機に直面し、友達を失い、将来の夢や希望を失いました。何よりも苦しかったのは、自分の障がいを受け入れることがで

きなかつたことです。障がいのある者は社会の重荷であり、この世に生まれてこなかった方が良い存在と見られていることを痛切に感じました。それは罪の重荷として私を苦しめたのです。

古来、障がい者は社会から差別され、その存在を抹殺されてきました。また、宗教的にも因果応報の教えによつて、障がいは罪の結果と考えられてきたのです。しかし、ヨハネによる福音書9章3節で、主イエスは次のように言いました。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」ここには、因果応報の教えをきつぱりと退け、生まれつき目の見えない人の上に、神の業が現れるためであると宣言されています。この言葉は、障がいや病に苦しんでいる人たちに明るい希望と生きる勇気を与え、私の牧師としての働きを支えてきた希望の言葉であります。



## ◆田中 文宏氏

一九五四年生まれ。65歳

### 学歴

一九七三年三月

兵庫県立浜坂高等学校卒

一九七七年三月

東京教育大学教育学部特殊教育学科卒

一九八一年三月

東京神学大学院博士課程前期課程修了

一九九〇年五月

ウエスタン神学校修士課程修了

一九九一年六月

シカゴ神学校博士課程修了

### 職歴

一九八一年四月

日本基督教団須崎教会牧師、須崎幼稚園園長(一九八七年三月迄)

一九八七年四月

日本基督教団永福町教会副牧師(一九八八年六月迄)

一九九一年七月

学校法人真駒内キリスト教学園理事長(二〇一七年三月迄)

(二〇〇八年四月からは同学園まごまない明星幼稚園園長兼務)

二〇一六年十月

日本基督教団名古屋桜山教会牧師(現在に至る)

その他

一九九二年四月

北海道いのちの電話札幌センター一研修員(二〇二二年三月迄)

二〇二二年四月

日本盲人キリスト教伝道協議会議長(現在に至る)

# 「水をください」 ～キリストの声を聞く



新生釜石教会牧師  
やなぎ や ゆう すけ  
柳 谷 雄 介

みなさん、こんにちは。釜石からやってきました。釜石市、今、ラグビーで盛り上がっています。人口3万5千人の小さな街で、津波で被災した小中学校の跡地に新しいスタジアムを作って、ラグビーの世界大会を開くという夢が現実になってしまったのだから、すごいことです。「何も無くなつた街で夢がほしかった」と言っている人がいます。そんな気持ちに突き動かされて私もやってきました。「復興とは元通りを願うのではない。」「被害にあつて悲しい思いをしたからには、それを上回る嬉しいことが待っているはずだ。」と信じていると思います。私は東日本大震災で被災して、人

生がそれまでとは大きく変わりました。私たちの教会は、あの3月11日に津波が押し寄せてきて、一階天井部分まで建物と家具類がめちゃくちゃになりました。でも、10日後の3月20日には、礼拝が再開しているのです。建物が海水と砂まみれになって、街も何も片付いてなくて、それでも教会の信者さんたちは、集まってきて、駐車場で賛美歌を歌って、お互いをいたわりあいました。そして、みんな大変な状況だからと、休憩場所を作ったんです。「お茶っこ」という言葉が一般的になる前から、被災現場で休んで安らぎを得る場所が必要だと。その憩いの場所です。私はキリストの声を聞いたんです。「水をください」と。疲れて、立ち上がれない人が「水をください」と言う、これがキリストの姿なんです。いわゆる神様とは逆に、私たちより弱い姿で、私たちより低いところにいる人の姿。そんなキリストとの出会いがみなさんの人生にも用意されていると私は思っています。

私も震災で大切な友人を失いました。その彼は、学校が嫌いで、中学生の頃はみんなが学校に行く時間に教会に来て遊んでいくような子でした。高校にも行かないで働きながら時々教会にやってきては、「あんな仕事やってらんねーよ」とか、「こ

の子、新しい彼女なんだ」などおしゃべりして帰っていくのでした。そんな彼が最後に教会に来たのは2011年2月でした。自殺未遂したのだと。聞けば、病気をしてしまった。職場でもうまくいかない。彼女ともうまくいかない。生きる希望がなくなつたんだと言います。2日くらい泊まって「なんとかやってみよう」と言つて帰っていききました。せっかくやる気出して頑張つていこうとしていたのに、1か月後の津波で彼は帰らぬ人となりました。もちろん、シヨックでしたよ。でも、後になつて親御さんが来て言ってくれたんです。「あいつは、柳谷さんと会えて幸せだったよ」と。

私たちは確かにあの震災で大きな荷物を背負つてしまいました。でも、震災がなかった人生は考えられないのです。地震、津波で、悲惨なことを起こす神さまを恨んで生きていくよりは、「まだ気づいていない希望が必ずある」と信じて生きていくと決めました。そして、そちらを選ぶと必ず嬉しいことが見えてくるものなのです。

## ◆柳谷雄介氏

一九六九年生まれ。50歳

### 学歴

一九八七年三月

岩手県立盛岡一高卒業

一九九三年三月

東京大学農学部獣医学科卒業

一九九八年三月

東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻課程修了

二〇〇七年三月

関西学院大学大学院神学研究科博士課程前期課程修了

職歴

一九九八年四月

国立循環器病センター研究所研究員(二〇〇四年三月迄)

二〇〇一年四月

国立医薬品医療機器総合機構特別研究員(二〇〇四年三月迄)

二〇〇七年四月

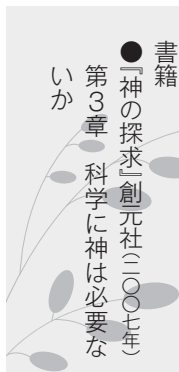
日本基督教団新生釜石教会牧師

(現在に至る)

書籍

●『神の探求』創元社(二〇〇七年)

第3章 科学に神は必要ないか





# クリスマスのご挨拶

みなさん、クリスマスおめでとうございます！



大学宗教授任 阿久戸 義愛



泉  
キャンパス

クリスマスおめでとうございます。今年もそれぞれのキャンパスでクリスマスを皆さんと一緒に祝えることを感謝したいと思います。

12月は、とても寒くて、太陽が顔を出す時間も短い暗い季節です。なんだか心も寂しくなっています。約二千年前、イエス様は温かい宮殿ではなく、小さく寂しい馬小屋にお生まれになりました。キリストの誕生の準備をするこの季節、私たちはそれぞれの心の中に、宮殿のような立派なものではなくても、馬小屋のような質素なものだとしても、イエス様をお迎えする場所をしっかりと心の中に準備したいと思えます。「神様はいつでも私たちと一緒にいてくださる(インマヌエル)」。そのような確信をもって、イエス・キリストが私たちと共に歩んでくださり、私たちを救ってくださることを覚えて、感謝しつつ、クリスマスとをともに祝いたいと思います。クリスマスをお喜び祝う笑顔が、皆さん全員に届きますように。

大学宗教授任 木村 純二



多賀城  
キャンパス

街にはクリスマスソングが流れ始めました。日本のポップスでは、クリスマスソングはラブソングでなければならぬという謎の「縛り」があるようで、しかも日本人らしく独特の(切なさ)も求められているようです。もちろん、Jポップのクリスマスソングにもよい曲はありますが、この大学にいるからには、ぜひクリスマスソングの讃美歌(クリスマス・キャロル)を歌い覚えて欲しいと思います。『讃美歌』98番〜119番、「降誕」と記されているのがクリスマスソングの讃美歌です。109番「きよしこの夜」、112番「もろびとごぞりて」などは、みなさんご存知でしょう。ほかにも98番「あめにはさかえ」、103番「まきびとひつじを」、111番「かみのみこはこよいしも」など、救い主の降誕を祝う晴れがましさに満ちた曲がたくさんあり、世界中で歌われています。こうした曲を通して、本当のクリスマスソングの喜びを味わって下さい。

総合人文学科長 川島 堅二



土樋  
キャンパス

クリスマスおめでとうございます！

二度の世界大戦とその後に続く戦争や紛争によって多数の難民が発生した前世紀は「難民の世紀」とも言われます。そうした状況は二十一世紀になっても終息することを知らず、世界各地で難民が発生し続けていますが、その原因は戦争や紛争などに加えて、今後地球温暖化や原発事故による環境問題を加える必要が出てくるかもしれません。

東日本大震災時には首都圏で五〇〇万人以上の帰宅困難者が発生しました。避難生活者は現在も五万人以上といわれています。今年の十月から十一月にかけて関東や東北地方を立て続けに襲った台風による被害で多くの人がいのちを落とし、また家屋を失ったことは私たちの記憶に焼き付いています。そうした中で迎えるクリスマスにはキリストとその両親であるマリアとヨセフもまたエジプトに難民として逃れた人々であったことを思い起こします。キリストはそのような困難な中に共におられるのです。

## 編集後記

今年もクリスマスの季節を迎えました。クリスマスに備えて、今年は本誌の表紙を飾った宗教部聖歌隊の隊員たちが思い出のクリスマス・ソングについて座談会を開き、指揮者の中川先生に文章で纏めていただきました。日々、格調ある楽曲に挑戦している隊員の学生たちですが、皆普通に流行りのクリスマス・ソングを挙げていました。松本院長・理事長からは、本学の「3し精神」に因んだ文章を寄稿していただきました。鐺木先生は、自身の専門の研究対象である「山下りん」について文章を寄せて下さいました。寄稿してくださった皆様、ありがとうございました。今年も皆様にクリスマスの祝福がありますように。メリー・クリスマス！  
二〇一九年十二月一日

東北学院大学宗教部 編集者 原田 浩司  
〒九八〇一八五一 仙台市青葉区土樋一丁目三番一号

## 宗教部よりお知らせ

## クリスマス礼拝のご案内

泉公開 クリスマス	12月6日 (金) 18:30~20:00	第一部：聖書マタイによる福音書2：1~12 礼拝「幼子を拝みに来た者たち」 説教者 瀬谷 寛氏 日本基督教団 仙台東一番丁教会牧師	
	泉キャンパス 礼拝堂	第二部：クリスマスコンサート 吹奏楽 東北学院大学シンフォニックウインドアンサンブル オルガン 今井奈緒子 独唱 中川郁太郎 合唱 東北学院大学宗教部聖歌隊、「音楽(混声合唱)」履修生	
大学 クリスマス	12月12日 (木)	説教者	10時25分~ 12時25分
	12月12日 (木)	棚村 重行氏 (東京神学大学名誉教授、特任教授)	15時~17時
	12月13日 (金)	合唱団によるメサイアの演奏	10時25分~ 12時25分